

会 議 記 録

会議名称	第3回忠類地域住民会議
開催日時	平成28年7月13日(水) 13:30~15:45
開催場所	忠類総合支所2階会議室
出席者	委員長、委員14名中出席者10名、事務局5名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育環境の現状と今後について 4 閉会
会議概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育環境の現状と今後について <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育によって、連携を取っていくのは良いと思う。 ・忠類の子どものあいさつは良い。先生方も自分から声をかけてほしい。 ・中学生は感受性の高い時期。その場しのぎの対応ではなく、一貫性のある言葉で指導してほしい。 ・一番大事な時期の基本的な教育を小学校が担っていて、忠類ではそれを地域で支えており非常に良いと思う。 ・勉強だけができて、社会に出て人の言うことを理解し、考え、判断できない人が出てきているように思えるので残念。 ・忠類の生徒は学力的には高い評価。さらにその上を求めていくなれば責任は家庭にあると思う。 ・真剣に子どものことを考えて、良い学校へ入れてやりたいという気持ちは十分にわかる。 ・地域の伝統、良い点を確認してその上に立脚し、教育振興策を考えていくべき。学習活動を通じて人間力の形成をお願いしたい。地域住民として自覚しなければいけない。 ・学校と住民との関わり合いを深く持って、全体の魅力づくりを内外に発信する取組みをしてはどうか。 ・忠類にはスキー場もあるので、特認校や山村留学であれば、スキー場をアピールすると来る可能性はある。 ・山もあるし、スキー、スケートもできるので、山村留学の形で子ども達を集めることも地域の活性化には役立つ。 ・スポーツも勉強もいかに指導力のある先生が長く子ども達をしっかりと指導できるかが大事。 ・指導力のある教員、優秀な人材を集めることは非常に有効だが、そういう先生ばかりを集めるのは非常に難しい。 ・山村留学も特認校も良いことばかり書いてあるが問題を抱えた子も来ると思うので、きちんと受け入れるシステム作りと受入住民として覚悟を持たなければいけない。 ・地元の高校を存続させるためにどこも必死。どういう支援が必要か、十勝全体の問題だ。 ・特認校と山村留学では、途別とは立地条件が違うことから山村留学の方

がお金は掛かるが、忠類地域としては取り組み易い部分がある。

【質問】

Q：平成30年度から導入する小中一貫教育はどのようなことを思い描いているのか。

A：中1ギャップということによる不登校等が増加してきているので、今行っている連携教育を一步進めた一貫教育ということを考えていこうというものである。

5つの中学校区を基本エリアとして、その中で小中一貫教育がどう作っていただけるかということで、今年と来年は調査研究をした中で、平成30年度の3年目には具体的実施に向けてのモデル校を設置していきたいという考えで検討に入っている状況である。

Q：高校に行ってから、定期テストによる評価方式になることから、忠類中だけが行っている単元テストだけによる評価方式ではなく、単元テストと定期テストの両方の良さを活かせる方法を工夫できないだろうか。

A：今の方法がどう効果的になっているのかを検証して、来年度に繋げていきたい。

Q：勉強が社会に出た時に必要になることを教えたり、考えさせたり、小さい頃から身に付けていかなければいけないと思うので、是非お願いしたい。

A：私もそう感じているので、そういう声があればどんどん学校にお寄せいただいて、今学校で行っている体験活動などを通して、いろいろ工夫していきたい。